

話し合って 発表する カード（5枚組） 1 / 3

A3で刷って教室に貼る5枚組です。**ぜんたい**を黒板の横に出しておき、**1～4**はその段階に入ったときだけ出すと、いまどこをしているかが子どもに見えます。中学年の「目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめる」（学習指導要領・国語）に沿った並びです。**問題を解く話し合いにも、「どう思う？」のような口頭の問いにも同じように使えます**。カードは渡して終わりにしません。やって見せる、いっしょにやる、子どもだけでやる、の順に手を放します。班に配る紙は別に2枚あります（すすめ方・発表メモ）。

話し合って 発表する カード

H00 確かめる → 出す → 比べる → 発表する

こんなとき 話し合いの見通しが持てず、どこから手をつければよいかわからない子に。班活動そのものが初めての時期に。

なぜ効くか 話し合いは4つの仕事に分かれている。全部を一度に求めず、いま何をする時間かを外に示すと、自分がどこにいるかを自分で確かめられる。問題を解く話し合いでも、「どう思う？」のような口頭の問いでも、この4つは変わらない。

使う場 話し合いの前に黒板の横へ常時掲示する。1～4のカードは、その段階に入ったときだけ黒板に出す（今どこかを一目で分かるようにする）。

何を 話し合うか 確かめる カード

H01 何を 話し合うの？

こんなとき 話し合いは始まったのに、何を話しているのか分からないまま座っている子に。口頭で「どう思う？」と投げかけられたとき、問いを覚えていられない子に。

なぜ効くか 話し合いは、目的と進め方を確かめるところから始まる（学習指導要領・中学年）。口で言われた問いは、聞いた瞬間から消えていく。自分のことばで言い直して班でそろえておくと、話がそれたときに自分たちで戻れる。「広げる」か「まとめる」かを先に決めるのは、解説が示す“意見を一つにまとめるために話し合うのか、互いの考えを広げるために話し合うのか”の確認にあたる。

使う場 問いを言ったあと、すぐ話し合わせずに「いまの問いは何？」と1人に言わせてから始める。問いを黒板に短く書き残すと、2ステップ目が自分でできるようになる。「広げる」か「まとめる」かは毎回ひとこと言う。前で話しているのが子ども（司会や発表班）のときも、同じ1ステップ目でよい。

話し合って 発表する カード（5枚組） 2 / 3

一人ずつ 考えを出す カード

H02 全員 言ってから、付け足し・質問

こんなとき 先に思いついた子だけで話が進み、自分の考えを出せないまま終わってしまう子に。思いついたことをその場ですぐ言ってしまう、話がとぎれてしまう子に。

なぜ効くか 「言う時間」と「つけたす時間」を分けると、待てない子は待つ場所が分かり、言えない子には必ず順番が回ってくる。まだ言えないときの言い方を持たせておくと、黙りこむかわりに自分の状態を伝えられる。

使う場 「順番に一人ずつ」を守らせるだけで、声の大きい子だけで終わる班が減る。つけたし・しつもんは全員が言い終わってから、と時間を分ける。

班の 答えを 比べる カード

H03 同じところ・違うところ

こんなとき 多数決で押し切ってしまう班、ちがう考えの子が言い出せずに引っこめてしまう班に。「まとめるとは一つにすることだ」と思っている子に。

なぜ効くか 中学年でつきたい力は、共通点と相違点に着目して考えをまとめることであって、意見を一つに減らすことではない。解説にも「考えが最終的に一つにまとまらない場合にも、どのような意見が出されたか、どのような点で考えが異なっているかを確認する」とある。ちがいを数えて持っていくほうが、学級全体の話し合いは深くなる。

使う場 「一つにまとめなさい」と言わない。分かれたまま持ってきた班を、全体場で先に取り上げると、次から安心して分かれたまま出せるようになる。

班の 考えを 発表する カード

H04 いくつ → 考え → わけ

こんなとき 立った瞬間に何を言うか分からなくなる子、「～だと思えます」で止まって理由が続かない子に。

なぜ効くか 「いくつ・考え・わけ」の順を先に渡すと、話す内容を思い出すのではなく、順にあてはめるだけで発表できる。理由を言う場所が形の中にあるので、言い忘れが起きにくい。

使う場 発表の前に、この形をノートに書き写させてから立たせる。「いくつ→考え→わけ」の順は、教師が板書でも同じ順に書いて重ねる。

話し合って 発表する カード（5枚組） 3 / 3

班に配る2枚の使い方

- ・ **G1 おすすめ方**（A4片面）＝班に1枚。ラミネートして机の中央に置き、1年使いまわす。
- ・ **G2 発表メモ**（A4片面）＝書きこむ紙。まとめて刷って教室に置いておき、話し合うたびに班に1枚配る。
- ・ 問いを言ったら、まずG2のいちばん上に問いを書かせる。口で言った問いは、書かないと消える。
- ・ ②で「みんなの考え」に一人ずつ書き、③で「出た意見は〇つ」を数え、④でそこに書いた文をそのまま読ませる。

はじめて使う日

- ・ 「ゼンたい」だけを貼り、話し合いには4つの仕事があることを伝える。
- ・ 先生が班の一つに入って、1から4までを実際にやって見せる（子どもは見るだけでよい）。
- ・ 次の時間から、いまの段階のカードだけを黒板に出す。全部を一度に貼らない。

印刷と掲示

- ・ 掲示のA3は5枚。「ゼンたい」は黒板の横に常時、1～4は磁石で貼り替える。ラミネートすると1年もつ。
- ・ 班用のA4は2枚。G1は班の数だけ、G2はまとめて刷り。両面で1枚にしてもよい。

よくあるつまずきと、その手

- ・ 2で声の大きい子から始まってしまう → 言う順番（座席順・出席番号順）を先に決めておく。
- ・ 3で多数決になる → 「いくつ出た？」と数だけを聞く。減らしなさいと言わない。
- ・ 4で理由が出てこない → 3に戻って「わけ」をノートに1つ書かせてから立たせる。